

## パキスタンの路地 2005年8月

パキスタンの首都イスラマバードは、1970年頃、カラチからの首都移転で計画的に建設された都市である。この計画を請け負ったのが、かのギリシア人ドクシアデスで、ヘレニズムの発揚か、エキュメノポリスへの展望か、グリッド状の今なら古典的都市の計画を作成し、それにそった都市が整備されてきた。このため路地らしい路地はほとんど見られない。効率的だか、賑わいも風情も乏しい。一方イスラマバードと隣接したラワルピンディは、ほとんどころく道路網もなく自然発生的に発展してきた町で、整然と健康清潔を表現するイスラマバードと全く対比的に、混乱、猥雑、不潔のシンボルのような都市として発展してきた。首都移転から35年の結果、イスラマバードはいまだ100万人を越えない都市であり、一方ラワルピンディは300万以上の都市としまで急拡大している。路地は当然活気あふれるこのラワルピンディにしか求めることができない。

ただ日本のような落ち着いた、或いは歴史を感じさせるような路地空間は成長都市の常か残念ながら見つからなかった。



ラワルピンディの商業地には、路地がある。両側には、食料品から衣類、雑貨など様々な店がごちゃまぜに商売をしているが、中には羊の頭を店先に一杯並べている店などもあって、ハエが路地の中を飛び回り、なかなか強い異臭も満ち溢れる。